

VERMONT  CASTINGS

ASPEN C3

アスペン C3
取扱説明書



2505 クラシックブラック

この取扱説明書は大切に保管してください。



バーモントキャスティングスのアスペンC3をお選び頂き、誠にありがとうございます。

バーモントキャスティングスのストーブは、長くご愛用いただけるように細部まで細心の注意を払って製造されています。

ストーブの使用を重ねると、鑄鉄独自の熱をゆっくり吸収、放射し長時間温めてくれる特徴がより分かるようになります。

また、バーモントキャスティングス製品は、最もクリーンな薪ストーブの1つです。しかしそれは製品の機能と正しい操作方法の両方がそろって初めて実現します。

この取扱説明書には本機の操作や、メンテナンスに関する情報が含まれていますので、よくお読み頂き参照してください。

警告！



この取扱説明書に記載されている操作方法を守らなかった場合、火災や怪我、場合によっては命の危険があります。

- ・ ガソリンや灯油、アルコールその他の可燃性液体燃料を使用したり、本機の近くに保管しないでください。
- ・ 燃やしすぎに注意してください。もし本体や煙突が赤く又は熱くなりすぎていたら、それは過剰燃焼状態です。過剰燃焼による故障の場合は保証の対象外となります。

■注意事項の表記について

警告

この取扱説明書に従わず設置、使用した場合、火災や怪我、命の危険があります。

重要

この取扱説明書に従わず設置、使用した場合、火災や怪我、命の危険が起こる恐れがあります。

注意

この取扱説明書に従わず設置、使用した場合、火災や怪我の恐れがあります。

注記

特定の状況での、適切な対処方法を説明しています。

警告！



表面が熱くなります！

本体、ガラス、ハンドルなどの機器は、燃焼中大変熱くなります。特に熱いガラスはやけどの危険があります。

- ・ ガラスが冷めるまで触らないでください。
- ・ 小さなお子様が近寄らないように注意してください。
- ・ ストーブを設置している室内では、お子様から目を離さないでください。
- ・ 本体や周辺機器が高温になることを皆に周知してください。
- ・ 高温により衣類や可燃物に着火する恐れがあります。
- ・ 本体周辺に衣類や可燃物を置かないでください。火災の危険があります。

重要！



火災の危険

以下の行為が行われた場合、保証の対象外となります。

- ・ 壊れている機器や部品等を使用しての設置。
- ・ 本機の改造。
- ・ 弊社でご案内している設置方法以外での設置。
- ・ 正規品以外の製品を使用しての設置、使用。
- ・ 全ての必要な部品を完全に使用せずに操作すること。
- ・ 本体に脚が付属している場合、脚を設置せずに操作すること。
- ・ 燃やしすぎによる不具合（本体や煙突が赤くなっていたら過剰燃焼状態です）。

これらの行為は火災の危険があります。

正しい設置、操作、メンテナンス方法を守らないと怪我や故障の危険があります。ご不明な点はストーブ購入先の販売店にお尋ねください。

目次

1 基本情報 P4

2 操作方法 P5

燃焼の仕組み	P5
火力の調整	P5
灰の処理	P7
熱出力の調整方法	P7
排気煙の確認	P8
煙/CO感知器	P8
室内負圧の抑制	P8
安全のために	P9
ドラフト管理	P10

3 メンテナンス P12

鋳物表面のお手入れ	P12
ガラスのお手入れ	P12
ガスケットの交換	P13
ドアラッチの調整	P14
煙突システム	P15
メンテナンススケジュール	P15

4 トラブルシューティング P16

5 パーツリスト P18



1 基本情報

United States of America

Vermont

ASPEN C3

アスペン C3

キュートなスタイルからは
想像できない高性能

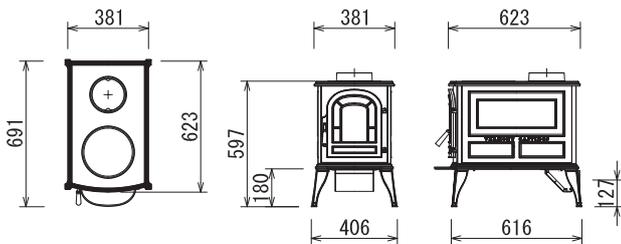
コンパクトでありながら力強い燃焼性能を持つアスペン C3は、くつろぎの空間に暖かさと愛しい雰囲気を提供します。新開発のC3(※)テクノロジーにより、着火から熾火燃焼までエアークонтроールの手動操作は不要。常に適切な燃焼空気が自動的に供給され、最適化された熱出力と効率が保たれます。奥行きのある火室には長い薪が入り、手前から奥にゆっくり燃えることで長時間燃焼も可能にしています。

※Continuous Combustion Control=連続燃焼制御

〔仕様〕

燃焼方式	クリーンバーン
最大熱出力	8,800kcal<10.2kW>
燃焼効率	81.4%
排気煙量	1.99g/h
最大暖房面積	111㎡(約67畳)
最大燃焼時間	10時間
最大薪長さ	40cm
サイズ	W406 × D691 × H597mm
重量	97kg

詳細図(mm)



C3テクノロジー



一次燃焼

バイメタルによって自動制御された空気がストーブ背面の給気口から入り、ストーブ底の通路から前面に送られる。この空気によって一次燃焼が行われ、エアーカーテン機能が働く。

二次燃焼

制御されない一定した空気がストーブ背面から入り、パッフル下部から火室内に流入。絶え間なく二次燃焼を誘発させる。

オプションアイテム

ヴァンテージ ガラスクックプレート

品番 3495

バーモントキャストिंगスのヴァンテージロゴをあしらった、スタイリッシュなセラミックガラス製のクックプレート。視覚的な魅力を演出し、優れた調理面になります。



外気導入キット

品番 OA-VC

- φ75アルミフレキ管
- ジョイントパイプ
- インテリアカラー
- 外用カバー



外気導入に対応する給気口

2 操作方法

■ 燃焼の仕組み

⚠ 重要！

本機は工場出荷時に最小燃焼速度に設定していますので、変更しないでください。

アスペンC3の燃焼方法

アスペンC3は、熱活性化技術である連続燃焼制御(C3)技術を特徴とし、2つの独立した空気供給システムによって燃焼制御を実現しています。暖房効率と熱出力を最適化するために、自動的に適切な量の空気を調整して火室内に供給します。それにより、最適化された熱出力と効率を保つことができます。燃焼中は自動サーモスタットが、ストーブから放射される熱に反応し、エアシャッターを調節します。

火力が大きくなると、サーモスタットはゆっくりとエアシャッターを閉じ、火室内に取り込む燃焼空気を制御します。火力が弱まると、サーモスタットが反応してエアシャッターを徐々に開き、火室内により多くの燃焼空気を取り入れ再び火力を上げます。この動作は、なるべく長く燃料がもつように、燃料が尽きるまで継続的に機能します。また、別の給気口から運ばれた燃焼空気は、別々の箇所を通過しながら過熱され、火室内上部に供給されます。これにより二次燃焼をサポートします。

高品質の薪のみを燃やしてください。

アスペンC3は天然の薪のみを燃料とするよう設計されています。最適な薪だけを燃やしてください。

十分に乾燥させた木材を燃やすと、最高の結果が得られます。適切に乾燥されていない“生木”は燃やさないでください。含水率20%以下が最適です。

薪の長さは40cm以下にしますが、細く割った薪は燃料補給が楽になり、最も効率的な燃焼を促進します。最も適切な薪は、少なくとも屋外で1年半程、通気の良い場所で乾燥させた、ナラ、クヌギ、サクラなどの広葉樹です。

もし広葉樹が手に入らない場合は、スギ、ヒノキ、カラマツなどの針葉樹を燃やすこともできます。これらも適切に乾燥させる必要があります。

割った薪は雨除けをした状態で乾燥させます。たとえ短期間であっても、薪はストーブから安全な距離を保ち、保管してください。

■ 火力の調整

⚠ 警告！

本機を使用する際は必ずドアを完全に閉めてください。

燃料は薪のみを使用し、グレートに直接置いて燃やしてください。薪を持ち上げたり、石炭やその他の燃料を使用しないでください。

薪の着火作業

鋳物は非常に強固ですが、ハンマーなどの鋭い一撃や、極端な温度変化によって壊れることがあります。また鋳物のプレートは温度の変化によって伸縮します。初めて使用する際は、温度変化によるストレスを最小限に抑える為、以下の手順にしたがって3~4回繰り返し焚き、徐々に慣らしてください。

1. 着火剤を火室内に置き、その上に6~8本の指幅程度に割った焚き付けを置きます。さらにその上に直径25~50mmほどの大きめの薪を2~3本置きます。
2. 着火剤に火をつけ、ドアを閉めます。直径80~120mmの薪を数本追加して、徐々に火を大きくします。最初の数回の慣らし焚きの場合、薪をしっかり熱し、消えるまで薪を燃やしてください。

- ・最初の数回はストーブ本体から多少金属の焦げた臭いがしたり、塗料の臭いがするかもしれませんが、問題はありません。

⚠ 注記！

一部の煙突は、外気温の影響であらかじめ暖める必要があります。この状況を改善するには、着火剤を焚き付けの上からストーブの後方に向け、火をつけドアを閉めます。この方法は煙の急激な上昇を促し、良いドラフトの発生をより起こしやすくします。一度ドラフトが起こったら、フロントドアを開け、残りの薪に下から火をつけます。煙突にしっかりと煙があがるまでこの方法を繰り返し、あらかじめ組んでいる着火用の薪には、煙突が温まるまで着火しないでください。

▲ 注記！

トップダウン着火方法

着火時に出る煙を制御することは、まだストーブが最適温度まで温まっていない為、難しいです。このような”コールドスタートアップ”時の排気ガスを減らす一つの方法として、『トップダウン着火方法』があります。手順は、大きな薪を一番下に置き、次にそれより小さな焚き付けを上に積み、さらに小さな焚き付けをその上に積み足します。一番上には細い焚き付けを置き、火を付けると焚き付けは上から下へ燃え進みます。火の大きさが徐々に大きくなる為、空気不足にならず、排煙も減ります。

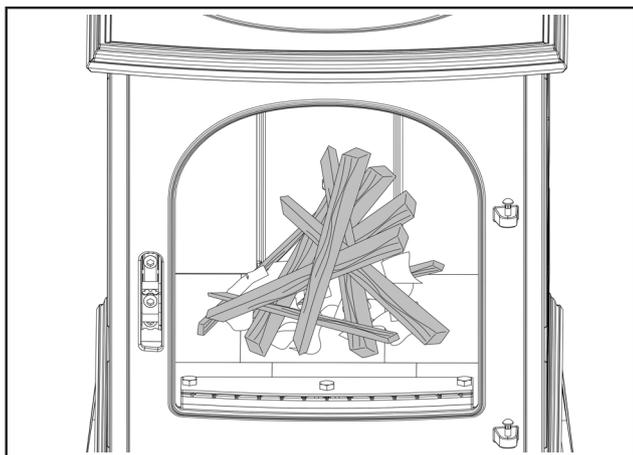


図2.1 着火時は小さく乾いた薪を使用します。

3.慣らし運転が終わったら、再び手順1-2を繰り返し火を徐々に大きくします。75~100mmの大きめの薪を投入します。

薪の補給

薪を追加投入する際は、熾火がまだ熱いうちに行います。いくつか小さめの薪も投入することで、スムーズに素早く再燃焼することができます。ストーブグローブを着用し、以下の手順で行ってください。

- 1.ファイヤーツールを使用し、熾火を崩してください。熾火を火室内後ろから前へ集めます。これは火が前から後ろに移動することで、燃焼効率を向上させるためです。一次燃焼空気口を灰でふさがないように注意してください。(図2.2)

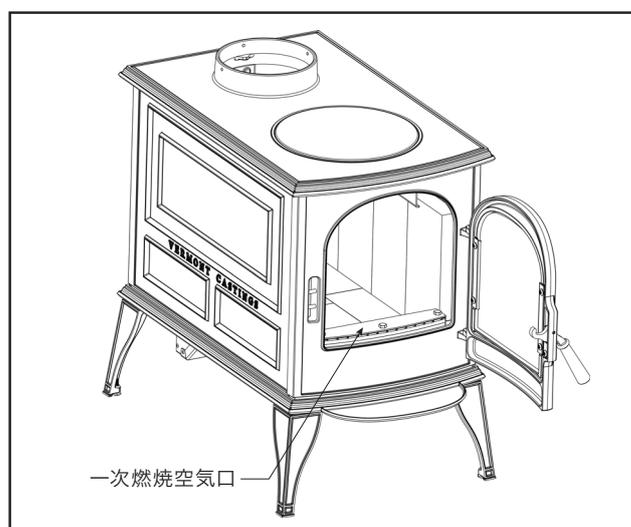


図2.2 一次燃焼空気口。

- 2.熾火の上に小さく細かい薪を最初に投入し、ドアを閉めます。その後火力が強くなったら薪を追加します。

▲ 注意！

本機の燃料には薪のみをご使用ください。その他の燃料を使用した場合補償の対象外となり、本体や家屋にダメージを及ぼす恐れがあります。

▲ 重要！

ガソリン、灯油等の液体燃料を着火時や薪の追加投入時に使用しないでください。これらの液体燃料は本体の近くに保管しないでください。

■ 灰の処理

一次燃焼空気口を灰が塞ぐ前に灰を捨てます。(図2.2)



図2.2 一次燃焼空気口。

定期的に灰を取り除くことは、メンテナンスやストーブの耐久性の為に重要です。薪の追加投入前に少なくとも1日1回は灰の量を確認してください。灰が溜まったらファイヤーツールを使い灰を取り除きますが、火室内の灰は全て取り除かず、2～3cmほど残しておきます。灰を残すことによって、次の着火がしやすく、また断熱効果もあり火室内の保護にも繋がります。

灰は蓋が密閉できる金属製の容器に入れ、屋外に保管します。容器は不燃性の床もしくは地面に置き、あらゆる可燃物から離してください。灰は地面に埋めたり、自治体の条例に従い適切に処理するまで、また灰が完全に冷めるまで密閉容器に保管します。

灰の処理の頻度は本機の使用頻度によります。

▲ 注記！

灰の蓄積に関して、定期的に本体と煙突の清掃を行ってください。本機の設置や修理は、ストーブ購入先の販売店にご依頼ください。本機使用前と、1年に1度は点検、清掃を依頼することをお勧めします。暖房シーズン後の定期的な点検はストーブの燃焼効率を最大にするためにも非常に大切です。

▲ 注意！

灰を掃除する際に掃除機で吸い込まないでください。灰は必ず適切な方法で処理しなければいけません。

■ 熱出力の調整方法

本機には手動でのエアークントロールがありませんが、熱出力と燃焼時間を調整する方法があります。

薪のサイズ

細めの薪は太いものに比べて早く燃え、熱出力が高くなります。太めの薪や割られていない木はゆっくり燃え、熱出力も低くなります。火室内の薪の配置は熱出力と燃焼時間に大きく影響します。一晩中燃やす場合は、火室内を薪でいっぱいにするか、太めの薪を使用することが最適となります。ハイシーズン以外では、細めの薪を少量入れることで、室内が熱くなりすぎるのを防ぎます。頻繁に火室内に薪をくべるより、定期的に1～2本の薪を追加投入していく方が熱出力の効率は上がります。

熾火

ストーブを連続燃焼させると、火室後方に熾火がたまることがあります。新しい薪を投入するスペースを作るために、これらを後方から前方に移します。熾火の上いくつかの細めの薪を置き、それらに十分火が回ったら新しい薪を投入します。

■ 排気煙の確認

煙突から出る煙の量を、定期的に確認してください。正常に作動していれば、煙は見えない状態になります。

⚠ 警告！



火災の危険

可燃物、ガソリン、その他の可燃性の液体をストーブに近づけないでください。

- ・可燃性物質は発火する恐れがあります。
- ・可燃性物質をストーブの周辺に保管しないでください。
- ・ガソリン、灯油、その他類似の燃料を、ストーブの着火や薪の追加投入の際に使用しないでください。
- ・本機使用中は、上記のような可燃性の液体をすべて本機から十分離してください。

⚠ 注意！

初めてストーブに火を焚く時は、塗料の硬化と製造時に使用した油等の燃焼により、ストーブから煙と臭いが発生します。

煙と臭いが室内に充満するのを防ぐために、初めて使用する際は窓を開けてください。

- ・この臭いは、敏感な方には刺激臭になる場合があります。
- ・煙感知器が作動することがあります。

■ 煙／CO感知器

法律で定められていない場合でも、煙／CO（一酸化炭素）感知器を設置することを推奨します。煙／CO感知器の説明書に従い、定期的にメンテナンスを行ってください。

ストーブを設置している部屋に感知器を設置する場合は、ストーブからできるだけ離して設置してください。また、感知器の感度に応じて、着火時や灰を処理している時は、アラームをオフにするなどの対応をしてください。

■ 室内負圧の抑制

⚠ 警告！



窒息の危険

- ・室内が負圧の状態は、煙や煤、一酸化炭素がストーブから流出する原因となります。
- ・ストーブは安全のため、適切なドラフトが必要です。

室内が負圧になる状態は、ストーブが適切に作動するために必要な空気の供給が不足することで生じます。特に建物の低層階で起きやすくなります。

原因は以下の通りです。

- ・換気扇（トイレ、浴室など）
- ・レンジフード
- ・給湯器などの燃焼機器
- ・衣類乾燥機
- ・エアコン

負圧を最小限に抑えるためには：

- ・外気導入を使用する際は、吸気口の位置を、ストーブを使用する期間の風向きに留意して設置してください。
- ・全ての燃焼機器に十分な外気を確保してください。
- ・エアコンをストーブ本体の近くに設置しないでください。
- ・廊下などの狭いスペースに、ストーブを設置しないでください。

■ 安全のために

⚠ 重要！

ドアを開けたままストーブを使用しないでください。ドアを開けたままの使用は過剰燃焼を引き起こします。ストーブの過剰燃焼は大変危険で、深刻な破損やけが、火災の危険があります。ストーブのどこかが、膨らんでいたら過剰燃焼状態です。

安全について：

本機を正しくご使用いただけない場合は火災の危険があります。安全のためにこの取扱説明書に従い、操作してください。

火が小さいうちに消し止める為に、消火器をすぐ手に取れる位置に配置してください。消火器は使用期限内であることを確かめてください。家族全員に設置場所と使用方法を周知してください。ストーブグローブをストーブ近くに配置したり、お子様がいる家庭は安全柵の設置等を行ってください。

ストーブや煙突で火災が起きた場合

- ・すぐに家族を避難させてください。
- ・消防署に通報してください。
- ・火災の勢いが小さい場合は、本体のすべてのドアを閉め、火室内へ入る空気を遮断することで、火災を最小限に抑えることに繋がります。
- ・ストーブを再び使用する際は、火災による破損がないか、ストーブ本体と煙突を点検してください。

ゴミや化学薬品、液体燃料を使用して着火しないでください。ガソリン、灯油等の液体燃料は絶対に使用しないでください。これらの液体燃料は、使用中は本機に近づけないでください。

⚠ 注意！

本機は使用中高温になります。衣類、家具等の可燃物を近づけないでください。また、やけどの危険がありますので、お子様が近寄らないようにご注意ください。



Ⅰ ドラフト管理

薪ストーブは、使用者、煙突、燃料、住宅からなる、総合的なシステムの一部です。

薪ストーブ以外の要素もストーブの機能に大きく影響を及ぼします。これらすべての要素の相性が良いほど、薪ストーブは効率的に稼働することが出来ます。

薪ストーブの性能は、自然なドラフト（上昇気流）次第です。自然なドラフトは、煙突の上部の排気ガスの温度が、外気よりも高温（つまり軽量）になると発生します。この温度差が大きいほどドラフトは強くなります。高温の煙が煙突から排気されると、吸引力が生じ、燃焼空気がストーブ本体に取り込まれます。火室内の火力が弱く、ゆっくりとしている時はドラフトが弱いことを意味します。反対に火力に勢いのある時は、煙突からストーブ内に取り込む空気が良いドラフトを生んでいる事を示しています。

薪ストーブの効率、煙突の設置状況によって強力なドラフトを発生させられるか、また、最適な温度を長時間維持できるかによって大きく変わります。

煙突の設置場所

煙突の重要な機能は、煙の温度を高温に保ったまま排気することですので、できるだけ屋内に設置することが最適です。屋内設置の場合、家が煙突の断熱材代わりとなり、さらに煙突からの放射熱でお部屋も暖めることが出来ます。屋外に逃げる熱が少ないという事は、ストーブ本体の熱を効率よく取り込むことが出来、結果、燃費を抑えることに繋がります。

煙突のサイズ

燃焼制御機能のついた薪ストーブに設置する煙突のサイズは、フルーカラーの断面積を基準とします。煙突のサイズがフルーカラーより大きくなると、排気ガスが希薄され、結果煙の温度が下がり、ドラフトも弱まります。煙突の直径が大きくなれば、ドラフトを発生させるために必要な熱量も多くなり、暖まるまでに時間がかかり、せっかく溜まってきた熱量が少しずつ消費されてしまうこととなります。フルーカラーと合った煙突を設置することで、ストーブ本来の性能を発揮でき、また煙の逆流などを防ぐことに繋がります。

煙突のレイアウト

ストーブと煙突トップの間に曲がりがある場合、煙の流れの障害になります。理想的なレイアウトはフルーカラーからまっすぐ垂直に伸ばす事です。このレイアウトではストーブの性能が最も発揮され、またメンテナンスも容易に行えます。エルボーを使用する場合は、フルーカラーと煙突の壁貫通部の中間位に設置してください。この方法では、煙が曲がる前に煙の速度を上げることが出来ます。また、熱伝導の為に煙突の一部を屋内に設置することも出来ます。室内にシングル煙突を使用する場合の長さは、フルーカラーから2.5mまでとしてください。これ以上になると、煙が冷却されドラフトが弱まり、またクレオソートが発生し詰まりの原因となります。より長い距離の煙突を使用する場合は、断熱二重煙突をご使用ください。

クレオソート

薪が低温で燃える時に生成される副産物がクレオソートです。煙の中に含まれており、煙がゆっくり煙突内を通り、その温度が150°C以下になると煙突内で凝固する可能性があります。凝固し蓄積したクレオソートは揮発しやすくなり、高温になると煙突内で火災を引き起こす恐れがあります。煙突のドラフトに影響する操作機能は、クレオソートの蓄積に影響を及ぼすため、良いドラフトを促すように機器の設置、操作をして、クレオソートの生成を最小限に抑えることが重要となります。クレオソートを蓄積させる主な要因は煙を冷やし、煙突内の通過速度を遅くすることですので、安全上の理由と機能性の観点からも、フルーカラーのサイズに合わせて、煙突を設置することが必要になります。

燃料

薪の乾燥度合いが悪いと、ストーブの性能はフルに発揮できません。必ず1~1年半乾燥させた薪を使用してください。生木は水分が多く、熱の一部が生木の水分を蒸発させるために使われてしまいます。また、本来部屋を暖めるために使われる熱量がこれに取られてしまうだけでなく、クレオソートが付着しやすくなります。薪の含水率を計測器で測る方法もありますが、見た目や重さからおおよそ分かり、含水量20%以下が最適です。生木は手に取ってみると重量感がありますが、乾燥すると重さは半分以下になります。また、乾燥した薪は縮む為、薪の先端にひびが入っています。乾燥させた期間が長く、ひびが多いほど薪は乾燥しています。

乾燥した薪は良好な燃焼状態となりますが、燃えすぎることもありますので、温度管理に十分ご注意ください。

警告！

紙類やゴミ等を燃やしたり、ストーブの出力を変更して高温になりすぎると、ストーブ本体に損傷を与える恐れがあり、さらには火災の危険があります。適切な薪を使用し、この取扱説明書に沿った使用方法で操作してください。

注意！

ストーブを操作する際は、常にストーブグローブを着用してください。

バックパフ

バックパフとは、ドラフトが弱く燃焼速度に合わせて煙が排出できない時に起こる現象です。火室内で発生した煙が、一定の濃度と温度に達したときに点火され、「ボン」という音とともに煙が空気取り込み口より出てきます。バックパフは弱火で燃焼させるような春先に起こりやすくなります。この場合、一度に大量の薪を投入しないように注意してください。低燃焼時にたくさんの薪を投入すると、未燃焼ガスが多く発生し、バックパフが起こりやすくなります。

結論

薪を焚く作業は、科学というより『芸術』です。もちろん芸術には技術が伴わなくてはなりません。設置場所や薪の種類も様々なように、運転方法も変わってきます。薪ストーブの性能を発揮させるには、ご自身で技術（タイミング）を習得しなければいけません。運転状況を記録することで、様々な因果関係や季節の変化がもたらす影響についても理解できるようになり、満足のゆく暖房効果を得ることができるでしょう。



3 メンテナンス

ストーブ本体及び、煙突を末永くお使いいただくために、定期的なメンテナンスが必要です。メンテナンスを行う場合はストーブ本体が完全に冷えてから行ってください。

■ 鋳物表面のお手入れ

表面についた灰やほこりは乾いた布で軽く払います。濡れた布を使用すると錆が発生しやすくなります。ストーブの塗装は必要に応じて補修ができます。補修する際は、まず初めに補修する部分の周辺をマスキングします。(ガラス、ハンドルなど) 塗装する部分をワイヤーブラシできれいにします。オプションのヴィンテージガラスクックプレートを設置している場合は取り外し、脇に置いておきます。その後ストーブ用耐熱塗料を少しずつ塗っていきます。一度に厚く塗るよりも、薄く2度塗りした方がきれいに仕上がります。

■ ガラスのお手入れ

ガラスへの付着物はほとんどが高温燃焼時に燃えてしまい、しかしガラス表面に長く付着したままの灰は、定期的に掃除しないと固着する恐れがあります。ガラスの手入れは以下の手順に従ってください。

- ・ ガラスが完全に冷えていることを確認します。決して熱いうちは行わないでください。
- ・ ストーブ専用のガラスクリーナーを使用します。研磨材入りのクリーナーは使用しないでください。クリーナーは少量使用し、ストーブの他の部位に付着しないように注意してください。
- ・ ガラスクリーナーをしっかりと拭き取ります。
- ・ ガラスを完全に乾燥させてください。

ガラスが破損した場合

ガラスが破損した場合は絶対にストーブを使用しないでください。ガラスを交換する際は、純正の耐熱ガラスを使用し、それ以外は使用しないでください。ガラスの破損の頻度を下げる為にもガラスを叩いたり、ドアを勢いよく閉めたりしないでください。

ガラスを取り外す

1. 下部と上部のヒンジピンが外れるまでドアを持ちあげ外します。外したドアは下向きにして、タオルなどを敷いた水平な場所に置きます。
2. ガラスを固定しているクリップのネジを外し、クリップを外します。
3. 慎重に壊れたガラスを取り除きます。

ガラスを取り付ける

ガラス回りのガスケットを点検してください。ガスケットはガラスをしっかりと密閉させる為に、柔らかく弾力性が必要です。硬くなっていたり、潰れている場合はガスケットの交換が必要です。

1. ガラスをガスケットの中央に合わせます。
2. 両方のドアのガラスをクリップで固定し、クリップのネジを締めます(きつく締めすぎるとガラスの破損に繋がる恐れがあります)。(図3.1)
3. ドアを元の位置に戻します。
4. ドアを開閉し、正しく作動するかを確かめ、必要な場合は調整してください。

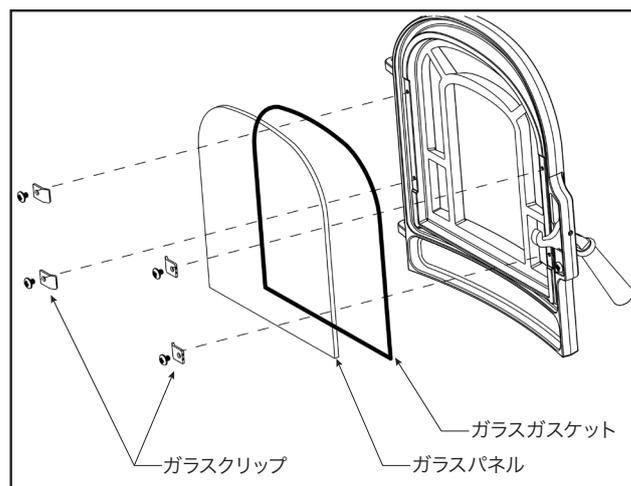


図3.1 ドアガラスの分解図。

■ ガスケットの交換

本機は部品同士がしっかりと密閉されるように、グラスファイバー製のガスケットロープを使用しています。ガスケットロープは使用していくうちに、特に可動部分ではもろくなったり、つぶされて密閉効力が落ちる為、定期的な交換が必要となります。

交換用ガスケットロープのサイズ（直径）と関連パーツは以下の通りです。

3/8"：フロントドア

3/16"：ドアガラス

ガスケットの交換が必要な場合は、純正の交換用ガスケットを使用します。火が消えてストーブが完全に冷めてから作業を行ってください。作業の際は安全ゴーグルと防塵マスクを着用してください。

ガスケットの交換手順は、ガスケットの位置に関係なく全て同じです。以下ご参照ください。

1. 現在付いているガスケットを片方の端を、力を入れて引っ張ります。（図3.2）
2. ワイヤブラシやドライバー等の先端部分で、溝に残っているセメントやガスケットのくずを掻き出します。必要に応じてセメントの頑固な堆積物を取り除きます。（図3.2）

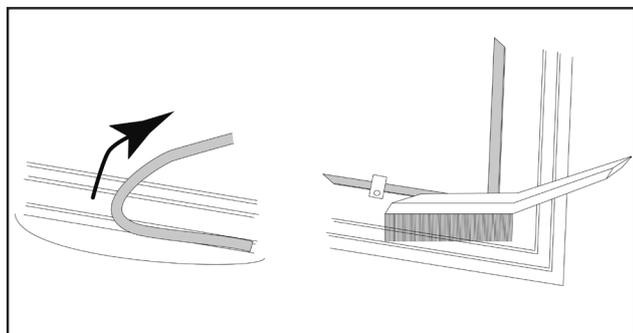


図3.2 ガスケットを取り除き、ワイヤブラシで溝をきれいにする。

3. ガスケットを接着する前にまずガスケットを溝にはめて長さを確認します。実際の寸法より3~5cm多めに残しカットする箇所に印をつけます。
4. 一度取り外し、印をつけたところでカットします。切れ端からほつれてこないように、両端を少し捻じります。
5. きれいに掃除した溝の中に、切れ目のないよう約3mm幅にシリコン又はセメントを入れます。（図3.3）

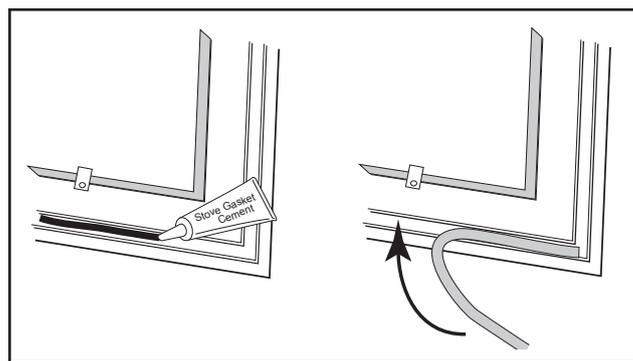


図3.3 シリコン又はセメントを入れ、ガスケットを定位置に押し込む。

6. ガスケットを一方の端から溝に押し込んでいきます。ガスケットを一巡させて余分を切り落とす際は端同士がしっかりと接触するようにします。余分な部分を切り落とす際はほつれた箇所は切り落とし、きれいな面同士が接触するように注意します。端同士が重なったり、端がほつれたままにしないでください。
7. ガスケットが溝に均等に入るよう、しっかり押し込みます。
8. 溝からはみ出たシリコン又はセメントをきれいに拭き取り、完全に乾燥させてください。
9. ストーブのドアは新しいガスケットを装着したのち、再調整が必要な場合があります。最初は新しいガスケットの厚みに慣れさせるため、ラッチを少し緩める必要があるかもしれません。そのような場合は、数週間後にまた圧縮具合を調節し、締め直してください。

その他の部分のガスケット

可動部分以外に設置されているガスケットは、それぞれの部品を密閉するためのものです。可動部位にあるガスケットほど摩耗や劣化はしにくく、関連部分を分解して元に戻す際以外での交換の頻度は極めて低くなります。本体を分解する際は、ストーブ購入先の販売店にご依頼ください。

■ ドアラッチの調節

ストーブのフロントドアはふいに開いてしまわないように、また火室から空気が漏れないようにしっかりと閉じる必要があります。ストーブを使用していくと、ドア回りのガスケットが潰れる為、ドアラッチを調整する必要があります。調整は以下の手順で行ってください。

1. 火室内のラッチアッセンブリ裏側にある1/4-20"ボルトを緩めます。(図3.4)
2. ラッチアッセンブリ表側にある1/4-20"ネジをきつく締めます。(図3.5)
3. 適切な密閉具合になるまで調節してください。

密閉具合を確認するには、薄い紙を一枚挟んでドアを閉め、少しの力で引き抜ける場合はガスケットが緩い状態です。微調整を繰り返し、ベストな状態へ調整してください。ラッチを調整してもドアが密閉できない場合、密閉できない箇所のガスケットを調整します。ガスケットが持ち上がるように、ガスケット下の隙間にガスケットセメントを充填して調整します。この方法でもドアが密閉できない場合はガスケットを交換してください。交換方法は前ページ“ガスケットの交換”をご確認ください。

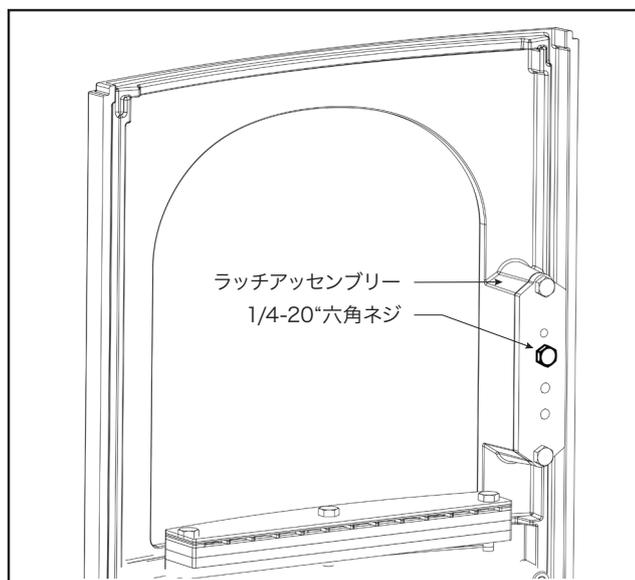


図3.4 ラッチアッセンブリの1/4-20"六角ネジを緩めます。

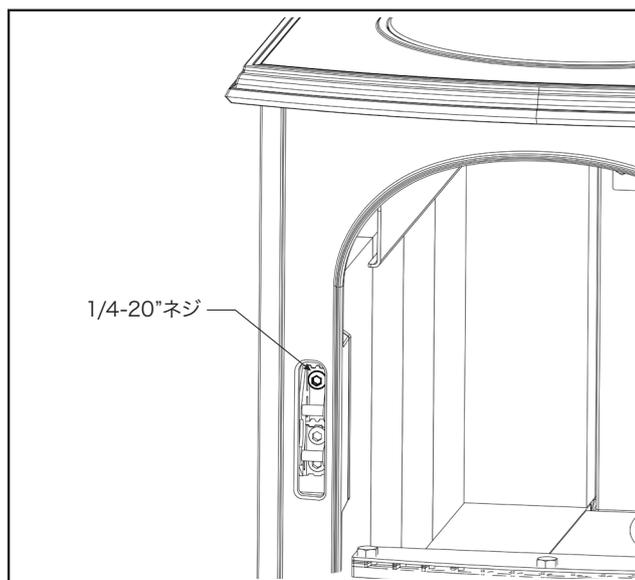


図3.5 1/4-20"ネジをきつく締めます。

■ 煙突システム

本機はクレオソートの蓄積を大幅に減らすように設計されています。しかし、定期的な煙突掃除やメンテナンスは必要です。安全性、ストーブの性能維持、煙突の保護のためには、定期的な点検を行う必要があります。一年に一回は煙突掃除を行いましょ。掃除を怠ると重大な煙道内火災が発生する可能性があります。

重要!

煙突の点検と清掃は頻繁に行ってください。特定の使用条件下ではクレオソートの蓄積が急速に発生することがあります。

ゆっくり燃える薪は、タール、有機蒸気、湿気を発生させ、これらが結び付くとクレオソートになります。クレオソートはゆっくり燃えるときに起こり、比較的低温状態のときに煙突内で固体化し、煙突内に残留物が蓄積していきます。これに着火すると煙道内火災が発生し、煙突内に損傷を与え、近くにある可燃物に引火する恐れがあります。煙突内に相当量（約3mm）のクレオソートの層が蓄積していたら、煙道内火災のリスクを減らすため、除去しなければなりません。

万が一煙道火災が発生した場合に備え、以下の対処法を周知してください。

- ・フロントドアがしっかりと閉まっている事を確認する。
- ・家からすべての人を退去させる。
- ・消防署に電話する。

シーズン中は日常のお手入れに加え2週間に1度の割合で煙突の点検を行ってください。点検をする際はストーブが完全に冷えていることを確認します。鏡とライトを使って煙突の差し込み口から煙突の中を照らして確認します。この方法ができない場合は、煙突をストーブから外して確認してください。

煙突掃除は煙突径と同じサイズのブラシを使って行います。煙突内部を自在に上下できる柔軟なロッドを使って、付着物が煙突下部に落ちるようにこすります。取り外し可能な煙突は屋外に出し、硬いワイヤーブラシで付着物をこすり落とします。掃除が終わったら煙突を元に戻します。自身で点検や掃除ができない方は、ストーブ購入先の販売店にご依頼ください。

■ メンテナンススケジュール

本体のメンテナンス

日常的に

- ・ ドアガラスに付着した煤をきれいに落としてください。
- ・ 灰が火室内に溜まったら捨ててください。1日1回は蓄積量を確認してください。
- ・ ストーブ周辺に紙や布などの可燃物を置いていないか確認してください。

2か月ごとに

- ・ ドアハンドルが正常に作動するか確認してください。ガスケットはしばらく使用していると圧縮されます。必要に応じてドアラッチを締め直してください。
- ・ 本体の脚のボルトが緩んでいないか確認し、必要であれば締めなおしてください。

シーズン終了後

- ・ ガスケットが摩耗していないか確認し、必要であれば交換してください。
- ・ 火室内の灰をきれいにし、湿気吸収剤（猫砂等）を入れ本体を乾燥させます。
- ・ ストーブ表面に劣化がある場合、タッチアップペイント等で補修します。

煙突のメンテナンス

2週間ごとに

- ・ 煙突内を点検し、必要であれば清掃してください。

2か月ごとに

- ・ 煙突内を点検します。煙突内の水平部と曲がり特に注意深く点検します。汚れている場合は清掃してください。

シーズン終了後

- ・ 取り外し可能な煙突は、屋外へ持ち出し点検と清掃をします。
- ・ その他の煙突の劣化を調べます。破損した部分があれば交換してください。煙突内部の汚れはしっかりと落としてください。必要であればストーブ購入先の販売店にご依頼ください。

4 トラブルシューティング

正しい設置、操作、メンテナンスを行うことで、薪ストーブは大きなトラブルなく長期間使用することができます。万が一トラブルが発生した場合は、以下を参照してください。

トラブル	可能性のある原因	解決方法
薪が燃えない	薪が湿っている	十分に乾燥した薪をご使用ください。適正な薪についてはP5燃焼の仕組みをご参照ください。
	太い薪のみを使用している	細い薪から焚き始めてください。焚き方はP5薪の着火作業をご参照ください。
	煙突が詰まっている	煙突掃除を行ってください。シーズン中は煙突トップだけが詰まることもありますので、トップの掃除も行ってください。
	換気扇を使用している	薪ストーブを焚く際に換気扇を使用していると、煙突内のドラフト(上昇気流)が弱まり燃えにくい場合があります。換気扇の使用を止めるか、窓を少し開けてください。
薪が早く燃えてしまう	薪が乾燥しすぎている	適切な含水率の薪を使用してください。適切な薪についてはP5燃焼の仕組みをご参照ください。
	ドアを開けたまま焚いている	ドアを開けたまま燃焼させると、空気を大量に取り込み、薪の燃焼を促進させてしまいます。フロントドアと灰受けドアが閉まっていることを確認の上、ご使用ください。
	ガスケットが消耗している	ガスケットを交換してください。ガスケットが消耗していると、隙間から空気を取り込み、薪の燃焼を促進させてしまいます。点検・交換方法はP13をご参照ください。
	煙突が長すぎる	煙突が長すぎると、ドラフト(上昇気流)が強くなりすぎ、必要以上に燃焼を促進させてしまいます。その場合、煙突ダンパーを追加することもできますので、詳しくはストーブ購入先の販売店にご相談ください。
	針葉樹の薪のみを使用している	広葉樹の薪も混ぜてご使用ください。
	薪が細すぎる	太めの薪を混ぜてご使用ください。

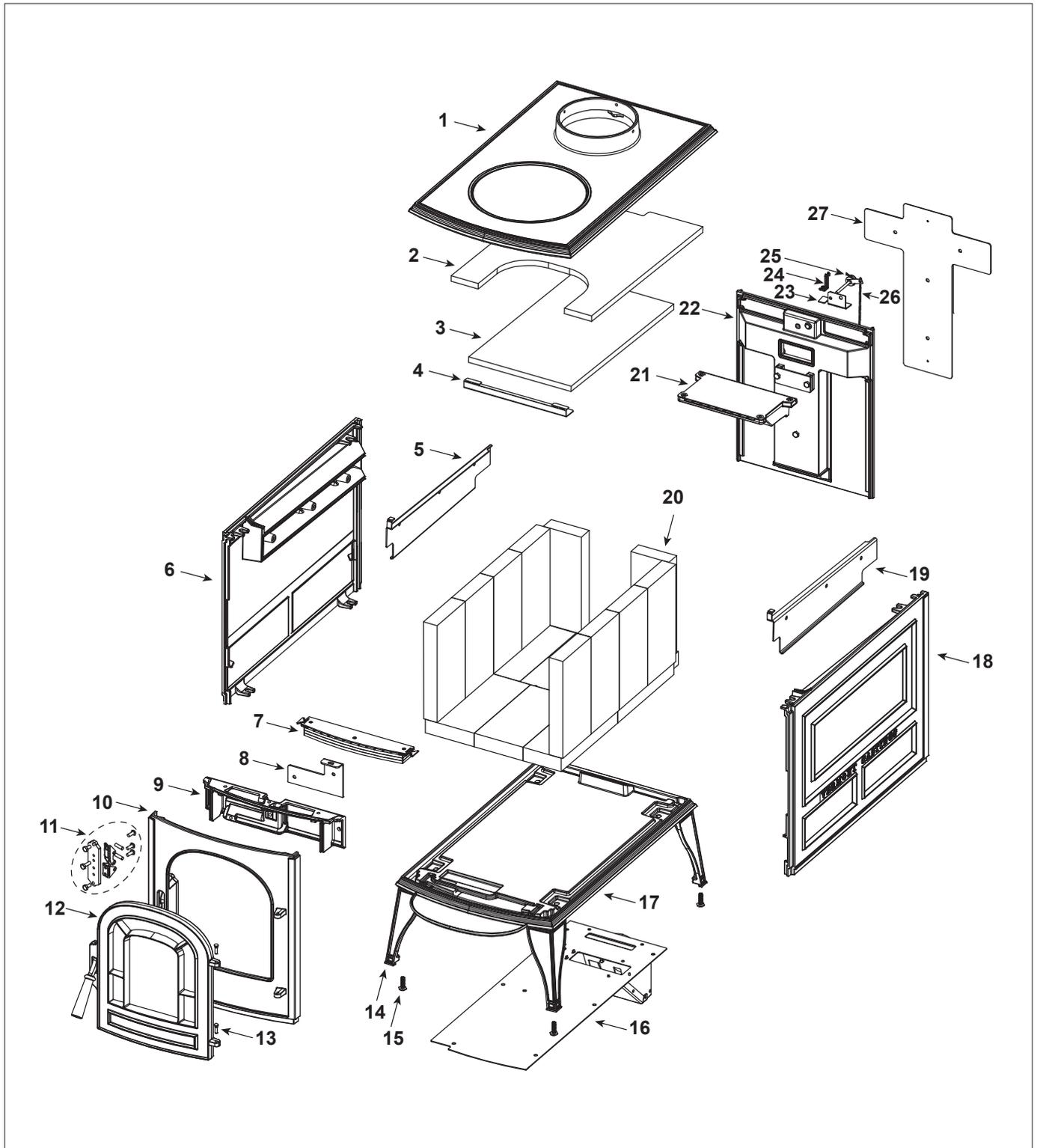
トラブル	可能性のある原因	解決方法
煙が逆流する	煙突が詰まっている	煙突掃除を行ってください。シーズン中は煙突トップだけが詰まることもありますので、トップの掃除も行ってください。
	強風が吹いている	強風が吹くことで煙が逆流することがあります。この場合、煙突を延長させたり、トップを交換する等の方法がありますので、詳しくはストーブ購入先の販売店にご相談ください。
	煙突の曲がりが多い・横引きが長い	煙突は曲がりの数が多い場合や横引きが長いと、ドラフト（上昇気流）の障害となります。結果、煙突が暖まらず煤やタールが溜まりやすくなります。煙突をしっかり暖めてドラフトを強くしてください。改善されない場合は、ストーブ購入先の販売店にご相談ください。
	換気扇を使用している	薪ストーブを焚く際に換気扇を使用していると、煙突内のドラフト(上昇気流)が弱まり燃えにくい場合があります。換気扇の使用を止めるか、窓を少し開けてください。
ガラスが曇る	薪が湿っている	湿った薪を燃やすと、クレオソートがガラスに付着し、曇ってしまいます。十分乾燥した薪をご使用ください。適正な薪についてはP5をご参照ください。
	ガスケットが消耗している	ガスケットを交換してください。ガスケットが消耗していると、隙間から空気を取り込み、薪の燃焼を促進させてしまいます。点検・交換方法はP13をご参照ください。
煙突が早く詰まってしまう	薪が乾燥していない	十分に乾燥した薪を使用してください。入手困難な場合は、細かく割ってご使用ください。
	燃焼温度が低い	低温で使用すると、不完全燃焼となり煤やタールが発生しやすくなります。ストーブを焚く際は、天板に置いたストーブ温度計で200℃以上でご使用ください。
	煙突の曲がりが多い・横引きが長い	煙突は曲がりの数が多い場合や横引きが長いと、ドラフト（上昇気流）の障害となります。結果、煙突が暖まらず煤やタールが溜まりやすくなります。煙突をしっかり暖めてドラフトを強くしてください。改善されない場合は、ストーブ購入先の販売店にご相談ください。
温度が上がらない (暖かにならない)	薪が湿っている	十分乾燥した薪をご使用ください。適正な薪についてはP5をご参照ください。
	薪の量が足りない	適正な薪の大きさ、量についてはP5薪の着火作業をご参照ください。

ASPEN C3

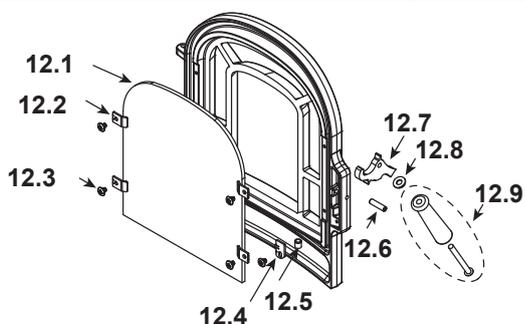
アスペン C3 パーツリスト

Model

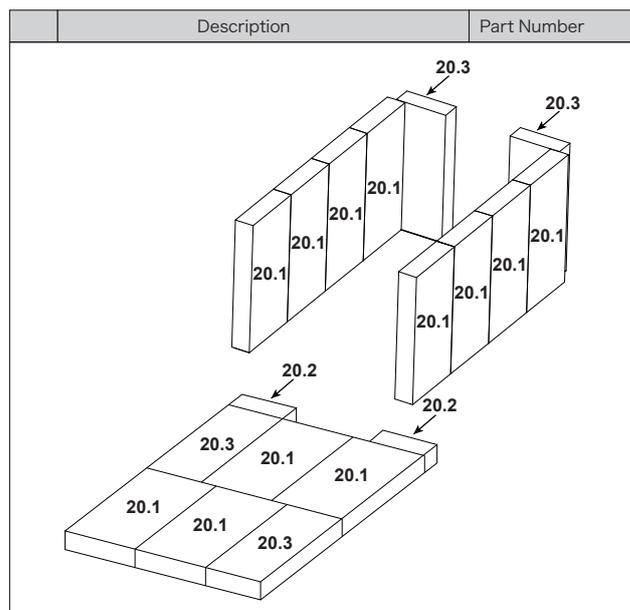
■2505



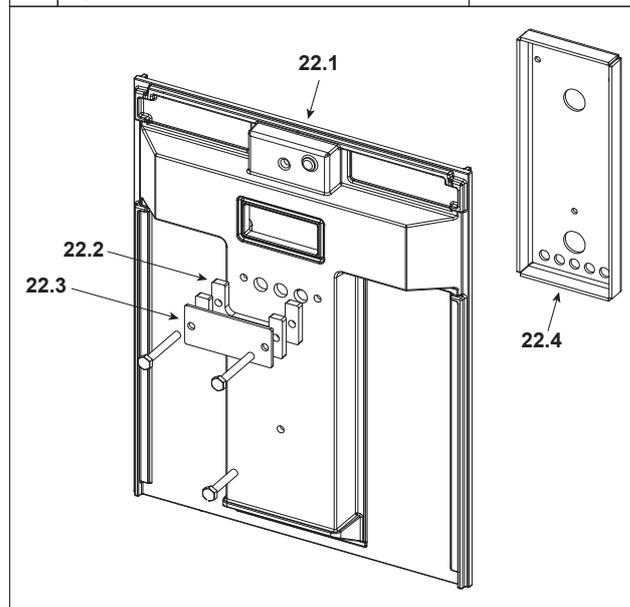
	Description	Part Number
1	Top	SRV4-00-950054
	3/8" Gasket	GK38
2	Blanket, Superwool	SRV3-44-950122
3	Refractory Baffle	SRV3-40-859031
4	Front Refractory Holder	SRV2-00-859112
5	Side Cover, Left	SRV2-00-950148
6	Left Side	SRV4-00-950119
	3/16" Gasket	GK316
	3/8" Gasket	GK38
7	Dog Box Combustion Assembly	SRV1-10-950011
	3/16" Gasket	GK316
8	Front Lower Primary Air Channel Cove	SRV2-00-950057
	3/16" Gasket	GK316
9	Front Lower Primary Air Channel	SRV4-00-950056
	3/16" Gasket	GK316
10	Front	SRV4-00-950052
	3/8" Gasket	GK38
11	Front Latch Kit	SRV1-00-950101



12	Load Door Assembly	SRV1-10-950100
12.1	Glass	SRV3-40-950144
12.2	Glass Clip	SRV2-00-586207
	Gasket, Door	GK38
	Gasket, Glass	GK316
12.3	Pan Head Phillips 10-24 x 1/4	1200980
12.4	Detent Plate	SRV2-00-950141
12.5	Ball Spring Plunger	3-31-73765
12.6	SSS CP 1/4-20 x 1	1200436
12.7	Door Latch	SRV2-00-950104
12.8	Washer, Flat 1/4	1202473
12.9	Wood Handle w/Bolt	1-00-00247
13	Door Pin 3/16 x 3/4	1600535
14	Leg	SRV4-00-950090
15	Leg Leveler	1201745
16	Air Control Assembly	SRV1-10-950110
17	Bottom	SRV4-00-950051
	3/16" Gasket	GK316
	3/8" Gasket	GK38
	5/16" Gasket	GK516
18	Right Side	SRV4-00-950120
	3/16" Gasket	GK316
	3/8" Gasket	GK38
19	Side Cover, Right	SRV2-00-950058



20	Firebrick Complete Assembly	SRV1-10-9500023
20.1	Firebrick, 9" x 4 1/2" x 1 1/4"	832-0550
20.2	Firebrick, 3 1/2" x 1 1/2" x 1 1/4"	SRV4-40-950018
20.3	Firebrick, 9" x 3 1/2" x 1 1/4"	SRV4-40-950019
21	Rear Secondary Manifold Assembly	SRV1-10-950139
	3/16" Gasket	GK316



22.1	Back	SRV4-00-950050
	3/16" Gasket	GK316
22.2	Outer, Rear Vertical Shield	SRV2-00-950146
22.3	Outer Cover, Rear Vertical Shield	SRV2-00-950154
22.4	Inner, Rear Vertical Shield	SRV2-00-950145
23	Blocker Plat	SRV2-00-950155
24	Ball Chain Bracket	SRV2-00-950137
25	Probe Assembly Secondary	1601489A
26	Ball Chain	30007431A
27	Back Cover	SRV2-00-950119



Vermont Castings 日本総代理店

ダッチウエストジャパン株式会社

☎ **0120-700-027**

✉ **info@dutchwest.co.jp**